

普及活動情勢報告（令和元年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

次作に向けて蒸し込み処理を！

・・・三崎支所キュウリ部会キルパー勉強会・・・



5月21日、JA幡多地区三崎支所でメーカーを招いた土壌消毒剤キルパーの勉強会を開催し、生産者及び関係機関15名が参加しました。メーカーからは使用方法、効果について説明があり、農業改良普及課からはキルパー処理実証ほの結果及び黄化えそ病対策について情報提供しました。生産者からは「濃度はどうか」「蒸し込み期間は」といったキルパーに関する多くの質問が出ました。勉強会后、生産者は場にてキルパー処理の実演を行いました。ほ場主からは「処理が簡単、液肥を流すみたいに使える」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、作終了時の蒸し込み処理を地域で推進し、次作の黄化えそ病低減できるよう働き掛けていきます。

今年も土着天敵の調査をします！

・・・宿毛支所オクラ部会現地検討会・・・



5月23日、宿毛支所管内2ヶ所で、トンネル除去後のオクラ栽培管理について現地検討会を行い、24人の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは土着天敵によるアブラムシ類被害低減技術について話題提供をしました。以前から、防風対策、周辺ほ場からの農薬飛散防止などの効果を狙って、オクラほ場をソルゴーで囲うことを推奨してきましたが、土着天敵を呼び寄せる効果もあります。

昨年はアブラムシ類の発生が少なく結果は判然としませんでした。今年も引き続き露地オクラの土着天敵について調査し、農薬削減に繋げることができないか検討していきます。

イチゴ育苗講習会

・・・大方支所イチゴ部会・・・



5月24日、JA幡多地区大方支所で、イチゴの育苗期における栽培管理についての講習会を開催し、生産者6名が参加しました。

農業改良普及課からはイチゴの重要病害である炭疽病の対策を主体に、育苗期における栽培管理のポイントについて説明しました。生産者からは農薬散布のタイミングについての質問があるなど、関心の高さがうかがえました。

今後も現地検討会等で情報提供を行い、炭疽病の発生ゼロを目指していきます。

宿毛の名産「直七」の生産拡大を進めよう

・・・直七栽培講習会・・・



5月24日生産希望者9名が参加して行われた「直七」産地化推進事業説明会で、幼木と成木の栽培管理講習会を行いました。

宿毛の特産品として安全・安心を第一にするため、収穫開始以降は、安全性の高い薬剤2種を使用する方針を確認し、耕種的防除に徹することを周知しました。

管理が不十分な園地もあり、生産組合では定植後の巡回指導に重点を置いて取り組む計画です。農業改良普及課は、生産量の早期拡大に向けた栽培支援を行います。

安芸市ミョウガ視察

・・・JA高知県幡多地区ミョウガ部会・・・



5月27日、JA高知県幡多地区ミョウガ部会生産者6名とともに、安芸市、田野町の生産者3戸のほ場へ視察を行いました。

部会では定期的に須崎、興津、安芸への視察を行っており、今回は安芸の養液栽培2戸、土耕栽培1戸で生産者同士の活発な意見交換がされました。

幡多地区では養液栽培を導入している生産者が少なく、給液の設定ECや収量性について関心を持っている様子でした。

農業改良普及課は、今後も生産者が学習できる機会を創出し、生産量増大に繋がるよう支援を行っていきます。

新規就農者の確保に向けて

・・・幡多地域新規就農者支援ネットワーク協議会・・・



5月27日、幡多地域の市町村、JA職員が集まり、新規就農者の支援に関する情報共有や取り組みの検討を行いました。

今年度は、8月16日に幡多地域就農相談会をJA高知県幡多地区本部において、開催し、研修や新規就農者への支援制度の紹介、個別相談会を行うことを決定しました。

今後、新規就農者の確保に向けて市町村やJAの広報等でPRを行うとともに、農業基礎講座を開催して新規就農者の育成に取り組んでいきます。

令和の時代に更なる発展を

・・・幡多地区環境制御技術研究会総会、研修会・・・



5月29日、幡多地区環境制御技術研究会総会、研修会を開催し、会員28名＋その他28名の総勢56名が出席しました。

総会では会長から「研究会活動は今後も続ける」と力強い発言がありました。また今後の研究会活動の参考に、アンケート調査を実施しました。

研修会では、農業イノベーション推進課の橋田専技が、「環境制御技術の導入状況と、スマート農業」について講演。スマート農業の動画では、新しい農業のカタチに前向き（または不満足）な反応で、会場が多いに盛り上がりました。

新しい時代の幕開けとともに、研究会活動もより内容を充実させ、スマート農業の推進と合わせ、全体の支援を行っていきます。

農薬の効果的な散布とは

・・・大月支所施設部会・・・



5月30日、大月町農村環境改善センターで施設ナス生産者6名が参加し、勉強会を開催しました。

近年、黒枯病の発生に苦慮する生産者が多く、農業改良普及課では、これまでに病害の生態、湿度管理及びローテーション防除について勉強会を開催しており、今回は「農薬の調製、散布、器具の洗浄」について、農業技術センターの試験成績や他県の事例を踏まえ、紹介しました。

生産者からは多くの意見が出され、有益な情報交換の場となりました。また、四万十市の生産者も初めて参加し、部会長からは「産地間での情報交換の場としていきたい」との話がありました。

今後も、勉強会や巡回により黒枯病防除に向けた指導を行っていきます。

「安定生産に向けて、まずは樹形をつくろう！」・・・三原村農業公社剪定講習会・・・



三原村農業公社のユズ園で、栽培管理第2班対象の剪定講習会を6月10日（成木）、6月13日（若木誘引）に行い、7名と6名が参加しました。講習会では誘引時に枝を裂いたり、骨格枝ではない枝をむやみに切断せず、理想の候補枝の発生を待ったり、不要な枝も収穫してから切断することを強調しました。

今年度から一環管理になり、防除と剪定の方針が融合し、作業員からは、「今までより楽しい。けど手袋をしたまま紐を結ぶのは難しい。」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は作業員の技術向上に向けて指導していきます。

来客者の増（売上アップ）を目指して・・・大月町集落活動センターカフェ「姫の里」・・・



6月11日、大月町集落活動センターにて、大月町集落活動センターカフェ「姫の里」の第1回の支援チーム会を開催しました。

チーム会では、カフェ「姫の里」の活動状況を報告後、今年度の活動計画について話し合いを行いました。今年度は、地域農産物を活用したランチメニューの開発に向けて、食材や料理カレンダーの作成、レシピ作り等について取り組むことになりました。

農業改良普及課では、今後も、6次産業化プランナーと連携をしながら、地域資源の活用方法やレシピづくり等、ランチメニューの開発・充実に向けて支援を行います。

6月から「農薬危害防止運動」が始まりました・・・大月支所オクラ部会目慣らし会・・・



6月13日、大月支所出荷場で、オクラの目慣らし会が開催され、生産者20人が参加しました。農協からは、前年からの規格変更点と今後の管理作業について説明がありました。

農業改良普及課からは、農産物の生産から出荷まで、食品安全や環境保全、農場経営改善、労働安全を含めた生産工程管理を点検・改善していくGAPの取り組みを紹介しました。

「春の農作業安全確認運動」に続き、6月からは「農薬危害防止運動」が始まりました。ワンチェック・ワンアクションで農作業安全に加えて農薬事故の防止を呼びかけていきます。